



企業が農業に!!

自然を知り、土を知り、人・作物を知る

農業生産法人あぐり

事業部長 大森孝宗さん

公共事業の減少により、民間企業の農業参入が増えています。

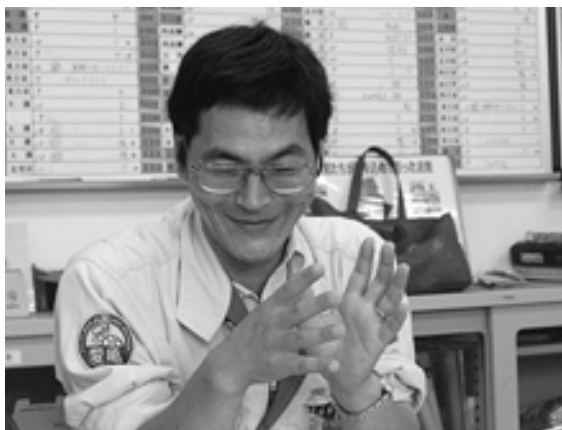
道路工事を専門分野とする株式会社愛亀も、平成12年11月、農業に参入しました。

社員の持つっている技術を生かし、松前町を中心に農業展開している有限会社あぐりの事業部長、大森さんにお話を伺いました。

夏は農業、冬は建設

建設会社から農業へ。そのきっかけとは。

「農業に参入する以前は、冬場に農家の方が建設に手伝いに来てくれていました。彼らは夏になると農業に帰っていくので、それなら逆に夏は農業の手伝いができない



かと考えたのがきっかけです」
8年目の今、60aの水田から始まった農地は、50ha。松前町だけでも30haを超えるといえます。

「あぐりのメンバーは1年間5名で固定です。それに、田植えの時期は愛亀から12名が6か月間オペレーターとしてやってきます」

そう話す大森さんの後ろの壁には、預かっている農地の一覧表がありました。どの農地で今何を栽培しているか一目瞭然でわかる一覧表。とにかくこの数の多さにびっくりですが、これをたったの17名で動かしていることにさらに驚かされます。

あぐりの戦略

「うちのコンセプトは無農薬・無化学肥料です。その点で松前町でよかったと思っています。地域の理解があり、有機農法にも理解を示してくれます」

あぐりでは、農薬や化学肥料を一切使わない方法で営農しています。その基本となるのは、食品残さを再利用し、環境にやさしく、強い土を作るばかりです。また、酒蔵メーカーの醸造で出た残さを使えないかと研究を行うなど、様々な可能性にチャレンジしています。

企業だからこそ

「企業は色々なことにチャレンジできるけど、個人だと難しいですよ。あぐりは企業だからこそあらゆる研究ができます。今後は、農家の方も使えるものを作って、松前町全体で有機農法に取り組みたらなと思っています。土を耕して土の上で土壌保全をしながらやっていきたいですね。それから、農業って7割は人件費なんです。農家の方は田の水を見に行っても人件費としないですよ。そうやって農業をしてきた人たちが、高齢になってしまつて農業ができない



農薬を使わずに生産「伊予あぐり米」



ぼかし肥料

となると、あぐりへの声が高くなります。だけど、預かってしまうと、農家が農家でなくなってしまうところ。それはさみしいし、できるところはしませんかと提案しています。これでも農業を守ることにつながりますから」

地域との結びつきを大事にしながら活動するあぐり。松前町の農業に深く深くつながっています。